

「あなたも私も生きがいのある人生を！」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

ヨハネによる福音書 12 章 20～26 節

物質的、精神的な豊かさが、私たちに幸福な人生を保証しないことは、誰もが認める事実だと思いますが。

何によって私たちは人生に生きがいや幸せを実感できるのか。

今朝はこの問いについて、イエス様の教えを紐解きながら一緒に考えてみたいと思います。最初のテキストは、マルコの福音書 1 章です。

朗読

「イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。

また、少し進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、すぐに彼らをお呼びになった。この二人も父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して、イエスの後について行った。」

マルコによる福音書 1:16-20

ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネは漁師仲間でしたが、イエス様と出会い、イエス様の、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」との呼びかけに間髪入れず応じたこと 17 節にあります。何故、彼らはそうしたのか。

神の国を切望していた。

メシアを待望していた。

エレミヤ 16:16 メシア王国の到来を予見したから。

いろいろ、理由があったと思いますが。

私は単純に彼らが生きがいのある人生、いわゆる、イエス様との出会いに彼らは自己実現の可能性を見たからではないかと後の彼らの言動から推測します。

人生に生きがいを感じる自己実現の人生観はアメリカの心理学者エイブラハム・マズローが主張した人間形成を導く欲求階層説の理論として広く知られています。キリスト教会では50年ほど前から牧師、リーダー達によって啓蒙され、日本では1980～1990年代の半ばに熱病のように広がりました。自己実現による人間形成の人生観の歴史はとても古く、原型はギリシャの哲学者アリストテレス BC384～322の「自己本来の働きの発揮が善である」という理念にあると言われます。

この自己実現を人生の至福、〈永遠の命〉にいたる道だと考えていたギリシャ人たちとイエス様との出会いが、

ヨハネの福音書 12章に描かれています。第二の聖書のテキスト

朗読

「さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」

ヨハネによる福音書 12:20-26

イエス様は永遠の命を探し求めるギリシャ人たちに“ご自身の死”と“一粒の麦が地に落ちて死ぬこと”を対比させて永遠の命は自らの命を憎むことによってもたらされると教えたのですが。

永遠の命とは何か?!

み子イエス・キリストとみ子を遣わした父なる神様を知ること。

ヨハネ 17:3

み子と父なる神様を知るとは、

神の愛を知ること、神との交わりに生きることに他なりません。

神の愛を知り、神との交わりに生きるために人が“自分の命を憎む”とはどういうことか？
命～人がその人生で一番大事にしているもの。

〈命は地球より重い〉

ダッカ日航機ハイジャック事件～福田赳夫元首相

イエス様はその命を憎めと命じたのです。

憎むのギリシャ語原語の意味

横に置く、拘らない

自分の命を憎む、自分の命に拘らないとはどういうことか。

それはイエス様が模範を示されたように人が自分のために生きるためではなく、他者のために生きるということです。

他者のために生きるとは！

他者のために、他者を愛するために、

生きるということです！聖書はこのことについてこう教えています。

「すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

ルカによる福音書 10:25-28

神を、隣人を他者を愛するために生きる！

この世はそんな甘いもんじゃない。

まずは、自分の事が先、家族、あとちゃんとお返ししてくれる人がその次！

人生、give and take だ！

そもそも自分のことを差し置いて他者のために生きる私の面倒は誰が見てくれるのか！

あなたのこと私のことは、神様がちゃんと面倒見て下さいます。それが神様の約束、聖書が証しする真理ですから。

「【都に上る歌。】 目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。 わたしの助けはどこから来るのか。 わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。 どうか、主があなたを助けて 足がよろめかないようにし まどろむことなく見守ってくださるように。 見よ、イスラエルを見守る方は まどろむことなく、眠ることもない。 主はあなたを見守る方 あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。 昼、太陽はあなたを撃つことがなく 夜、月もあなたを撃つことがない。 主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。 あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。 今も、そしてとこしえに。」

詩編 121:1-8 新共同訳

「あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。 今も、そしてとこしえに。」

詩編 121:8

“出たつのも、帰るのも主が守る”とは

日常の全ての営みを主が守る！

という意味です。

この主の約束は真実です。あなたが他者を愛するために生きようと願うなら主があなたの面倒を見て下さり、あなたを祝福します。

みなさん、他者のために、他者を愛するために生きる人の生涯には多くの実が結びます！その実とは、あなたの隣人と共に永遠のいのち、神との交わりに与る幸いです！

この幸いな人生にあなたや、私も招かれているのです。

「はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」

ヨハネによる福音書 12:24-25 新共同訳